

♪ 苦しいことも あるだろさ 悲しいことも あるだろさ
だけど ぼくらはじけなない 泣くのはいやだ 笑っちゃおう
進め ひょっこりひょうたん島 ひょっこりひょうたん島

2011年4月15日 (財)日本老人福祉財団
103-0012 中央区日本橋堀留町1-7-7
Tel:03-3662-3611 Fax: 03-3662-3656

デイサービスを利用して入浴援助へ

第3次隊長レポート③【14日 22:45】

- 本日も引き続き晴れました。幸い、風もなく穏やかで、一時は半袖でも暖かいほどでした。
- 遠野市、大槌町に来てから4日目となります。遠野市から大槌町への道順も慣れてきてきました。

入浴介助

- 午前中は、安渡小学校の男性2名の入浴介助です。お二人ともに、第2次隊が一度入浴介助をした方です。〈ゆうゆうの里〉のことは、すっかり覚えて頂いていました。

【Kさん】

- ・「気持ちよかった」と。道中、Yさんと楽しそうに話しておられた。
- ・今、何か必要なものはないか伺うと、特にないとのこと。
- ・被災してしばらくは、食事も1日につき1回だけだったり、とても寒かったが今は大丈夫とのこと。
- ・「他にお風呂が必要な方はいないか」伺うと特に思い当たらず。

【Yさん】

- ・「気持ちよかった」とのこと。
- ・ゆうゆうの里に興味を持って頂いたご様子で「どこにあるの?」「親分は誰?」と質問されお答えする。

大槌町の状況…聖隷チームM隊長が中央公民館で調査

- 大槌町の役場は、ニュースでも報道されているように、津波で壊滅になっているため、現在、高台の中央公民館に場所を移し、活動を再開しています。また、大槌町社会福祉協議会も中央公民館の近くにプレハブを立て、活動を再開しています。
- 現在、大槌町周辺の介護ニーズを集約しつつあるのは、大槌町の福祉課と地域包括支援センター、大槌町社協です。各避難所に対応している他県の保健師も担当している地域の介護ニーズを把握しています。
- 地域包括支援センターが5人で活動を再開して、高齢者のニーズを調査しています。
- 各介護事業者の人手は、足りてきている。大槌町の従来の職員と青森県と花巻から介護職員が派遣され対応しているとのことです。

特別養護老人ホーム訪問

- 午後は、聖隷チームとともに、吉里吉里地区にある特別養護老人ホーム「らふたあヒルズ」と「三陸園」(いずれも社会福祉法人堤福社会が運営)を訪問。
- 介護は足りてきている。青森県と花巻市の老人福祉施設協議会(老施協)の介護職員の応援もあります。
- 他県のホームへ避難する利用者もあります。避難するホームは避難先に家族がいることが多いそうです。
- 地域包括支援センターも動き始め、ニーズ調査だけでなく入浴などの送迎も行っているようです。しかし未だ人手は足りないようです。
- 避難した看護師、介護支援専門員の代わりに務めることができる職員が長期的に確保できるかどうか、今後の課題です。
- 介護職員は、現地で雇用を必要とする人が多くいるであろうから、集



まるだろうとのことです。(公民館にも、求人が出ていました。)

三陸園デイサービスの風呂が使えるようになります

- 三陸園H施設長とお話しし、デイサービスのお風呂を利用して、避難所の要介護者の方への入浴援助ができるようになりました。
- この結果、デイサービスのお風呂を、〈ゆうゆうの里〉チームと聖隷チームが行っている入浴介助に使用することができるようになります。自衛隊の仮設風呂に比べると、格段に環境が良くなります。
- 使用できる日時は、水・土・日・月が終日。その他の曜日は、14:00 から使用可能です。
- 15日、デイサービス利用者との調整など三陸園と詳しく詰めます。

その他

- レンタカー調達しました。現地での動きをよりスムーズにするために、遠野市でレンタカー(軽のオートマ)借り、明日(15日)より使います。
- 14日夜、地元紙の「岩手日報」支局長の取材を受けました。〈ゆうゆうの里〉派遣隊の動内容、今回の地震と津波の感想などを聞かれました。記事になるようなら郵送してくださいと依頼しました

第2次隊隊員を出迎え 佐倉〈ゆうゆうの里〉

- 4月13日被災地支援から帰還した、第2次隊K職員が、無事に佐倉(ゆうゆうの里)に帰りました。出迎えた職員に「私たちの支援で3週間ぶりにお風呂に入った方の笑顔は、一生忘れられません。私たちの活動は、被害の規模を考えると、小さなものかもしれませんが、被災された方々の希望になることを願っています」と挨拶しました



震災支援活動への思い (理事長 田島誠一)

- 私には、震災の支援活動について思い続けていることがあります。阪神淡路大震災のことです。当時、私は浜松の聖隷病院の事務長でした。あの日私は、正午まで阪神地区の状況を正確に把握することが出来ませんでした。夕方には、緊急支援物資を積んだ調査チームを派遣し、翌々日から宝塚市に医療チームを派遣するなど、病院としての支援活動を展開しましたが、その一方で後悔があります。
- あの日の午前中の甘い判断、その結果の行動の遅れが、「医療支援の初動の遅れに繋がったのではないかと」思う気持ちを拭い去ることができないのです。地震発生「直後から、もっと早く動いていれば、一人でも二人でも多くの方の命を救うことが出来たのではないかと、ずっと思ってきました。
- 東日本大震災が起きてすぐ頭に浮かんだのは、このことでした。困難な人の傍らに居ることとは何か?何をすべきか?言葉だけでなく行動し、悔やまないようにしなければ、と強く思いました。
- 財団は、震災救援として、救援募金の呼びかけ、被災高齢者の受入れ、介護チームの派遣にとりくんできました。介護チームの働きと募金の状況は、このニュースで毎日お知らせしているところです。
- 派遣隊への温かい励ましと、1千万円近い募金の額に、ご入居者、職員の共感の高さを思い、感動を覚えています。
- 被災高齢者の受け入れについては、多くのご入居が早く受け止めていただきました。そればかりか、「環境に配慮してあげよう」、「里の行事にも参加してもらおう」、「責任は大きい覚悟を持って実施しない」などの激励までいただきました。〈ゆうゆうの里〉7施設合計で最大200名の受け入れ可能な体制をつくる事が出来ました。(未だ、受け入れは行っていません。今のところ、予定も決まっていません。)
- 生活を支える福祉・介護の支援はこれからますます大切です。しっかりと取り組んでいきます。多くの方のご協力をお願いいたします。

4月12日までの募金
累計 925万円

東日本大震災救援募金(義援金)受付中

〈ゆうゆうの里〉及び本部事務所に募金箱を設置しています

☆ 寄付先や用途を指定される場合、寄付金控除のための領収書が必要とされる場合は、事務所へお申し出ください。